

## 森講演録に対するコメント

大北 葉子

### 詳細目次

1. はじめに
2. 漢字能力と日本語能力の関係
3. 中国語母語話者の漢字・語彙学習の問題点
4. 教授によって学習への態度などを変えられるか
5. 語意推測力を上げる方法
6. 適切なストラテジーの選択

参考文献

## 森講演録に対するコメント

大北 葉子

### 1. はじめに

私も森先生と同じく読解に興味があり、博士論文以来漢字習得を主として研究テーマにしています。私はアメリカで英語母国語話者を、シンガポールで英語中国語バイリンガルの中国系シンガポール人を教えた経験があるのでその経験も踏まえ、1)漢字能力と日本語能力の関係 2)中国語話者の日本語語彙・語彙学習 3)教授によって学習態度などを変えられることができるか 4)熟語構成要素から意味の推測能力をあげるにはどのような方法があるか の4点について私なりの感想と今後の研究への期待を述べてみたいと思います。

### 2. 漢字能力と日本語能力の関係

森先生のご研究結果で全く同感なのが漢字を推察する能力と日本語能力とは相関関係がないという点です。私のデータ(Okita, Guo & Chen, 2004)でも漢字の試験(書き取り、読み方)と日本語能力の相関関係は低いものです。なぜでしょうか?一番の問題は日本語能力又は言語能力というもの様々な要素を含み非常に定義しにくく、測定しにくいからではないでしょうか。言語能力とは、大まかに聴解、発音、音韻、文字、語彙、統語、語用などの要素の統合と考えても、漢字の読み書き能力は日本語能力の一部分の能力であり、漢字能力と日本語能力の関係は複雑で一義的ではないと思われます。研究では漢字能力と日本語能力の関係を調べるため相関係数や回帰分析などの統計が使われるのですが、相関係数や回帰分析は変数間の直線的で総和的な関係を前提にしているため、漢字能力と日本語能力の間には有意な結果はでにくいと思われます。もう一つの問題は日本語能力が適切に測定できるかということです。大学など学校教育の場での研究では日本語能力の指標として期末試験が使われることが多いのですが、期末試験の構成は日本語能力を適切に測定しているのでしょうか。期末試験はもともと到達度試験であ

って能力試験ではありません。ただカリキュラムが決まっている大学教育の中で能力試験をするという時間がとれることは少ないですし、英語のTOEFLのような能力試験が日本語教育にはありません。期末試験を使わざるを得ないというのが現状です。私は現在のところ漢字能力と日本語能力の関係を研究するのはあきらめてしまっています。

### 3. 中国語母語話者の漢字・語彙学習の問題点

森先生はアメリカで英語母国語話者を対象になさっていますが、日本で多くいる中国語話者の漢字・語彙学習の問題点は何でしょうか。日本語と中国語では同じ意味の時もあるが、違う時もあるというのが難しい点だと思います。私も中国語で「学長」が生徒会長の意味だということを知らなくて大失敗したことがあります。シンガポールの日本語学習歴2-3年の中国系学習者を対象に「日本語と中国語の漢字・語彙は意味が異なることが多いので中国語の知識を使って日本語の意味を類推しない」という項目を5段階(1=strongly disagree 5=strong agree)で評価してもらったところ平均は4ぐらいでした。失敗を重ねることでやる気を失った学習性無気力(learned helplessness)でしょうか。中国語簡体字使用(日本語の漢字の代わりに中国語の簡体字を書く)と中国語での漢字知識、漢字学習ストラテジー、漢字学習信念の関係も少し調べてみたのですが、中国語の漢字知識は必要だが過剰に依存し、日本語の漢字学習を軽視するのはよくないという当たり前と言えれば当たり前の結果が出ました。日本語と中国語の語彙比較や誤用研究は数多くありますが、どのような学習者がどのような学習ストラテジーを使えば漢字・語彙学習の効果が上がるかというように学習過程に踏み込んだ研究はまだ多くはなされていないと思うので、今後の研究課題として深く掘り下げていく必要があるのではないのでしょうか。

#### 4. 教授によって学習への態度などを変えられるか

教授によって学習への態度などを変えられるか。この問題もとても重要だと思いますが、動機づけの研究と同じように自己効力感(Self-Efficacy)や期待価値(Expectancy Value)を考慮に入れる必要があるのではないのでしょうか。動機づけの研究では教授によって動機づけを高めることができるか、その結果日本語能力を高めることができるかなどが研究されていますが、明解な答えは出ていないと思います。なぜでしょうか？特に外国語学習の場合、ほとんどの学習者は日本語が専門ではなく、単に必修の外国語の単位が必要だからとか、日本語学習のゴールも少し知っていればいいのか中級ぐらいでいいということが多いです。つまり、多くの学習者が自分なりのゴールを持っていて必要以上の努力はしないということがあります。学習性無気力や自己効力感は学習態度へ与える影響が大きいと思います。

#### 5. 語意推測力を上げる方法

熟語の構成要素を活用しなから推測力を上げるというのは大まかな規則、例えば修飾語が被修飾語の前(牛乳、乳牛)、主語—述語(人選)、中国語の語順の影響で述語—主語の関係になっている(乗車)などを教えるべきかとは思いますが、それでは説明できないことが多くあると思います。そういう場合どうすればいいのでしょうか？熟語の作られた経緯が分かれば納得がいくことがあるのではないのでしょうか。ご講演の中で話題になっていた「月食」ですが、本当は地球が太陽と月の間に入って月が欠けてしまう現象なのですが、原理はさておいて、地球上の人の視点から見れば「月が食べられてしまった」と解説すれば「日食」の意味も類推できるようになるのではないのでしょうか。文化的差で全く推測がつかないという時もあります。例えば英語で「眉を上げる raise someone's eyebrow」という言葉があるのですが私は最初どうしてこれが「驚く」という意味になるのか分かりませんでした。私の眉は驚いても上がりません。映画などで見かけることがあります。白人の片方の眉が驚きで上がる場合があります。多く(約90%)の日本人は顔の筋肉の

違いで片方の眉だけを上げるということができません。どうしても両方の眉が上がってしまいます。このような事情を知ってやっと言葉の意味が納得できました。納得がいったと同時に覚えました。語源を教えるというのは語の意味が理解できるとともに異文化理解も深まると思います。また英語=日本語という辞書的意味記憶(セマンティックメモリ)と言うよりストーリー付きの体験記憶(エピソードメモリ)の一面も加わって語彙が定着しやすいのではと思います。「温故知新」「四面楚歌」など中国古典からの4字熟語は語源を知らないと意味を理解し記憶するのは難しいと思います。語源を教えるというのは大切な語彙教授法の一つではないのでしょうか。

#### 6. 適切なストラテジーの選択

私の英語学習経験では私の推測はほとんど当たらなかったという経験があります。その結果私は推測というストラテジーはあまり使わなくなりました。こういうのは学習性無気力の一つだと思うのですが、私のせっかちな性格もあって辞書を引いたほうが早いということになりました。語彙の学習は意味理解から言葉を覚える、使えるという段階があると思います。推測も辞書も意味理解でのストラテジーだと思います。新しい言葉を覚える、使う段階になるとまた別のストラテジーがあると思います。推測、辞書、どちらのストラテジーがいいかということはないと思います。研究テーマとしてはどのような学習者がどのような段階でどのような言葉を学習する時に、どのようなストラテジーがいいかということになるのでしょうか。

#### 参考文献

Okita, Y., Guo, J. H. & Chen, L. H. (2004) The influence of Chinese knowledge on learning kanji by Chinese-Singaporean learners of Japanese, Presented at CLaSIC 2004, Singapore December 2nd 2004.